

川崎の産業観光を支援する会

製粉ミュージアムと正田記念館、向井千秋子ども科学館見学ツアー

2016/04/27

参加者 14名

記録 根岸雅明

日清製粉ミュージアムと正田記念館、向井千秋記念子ども科学館見

学ツアー記録

2014年4月に川崎の産業観光を支援する仲間達とツツジ見学と製粉ミュージアムに見学に行きました。館林の満開のお花がとても印象的でした。また、製粉ミュージアムでは小麦製粉のラボ教室（実証教室）で小麦粉ができる過程と品質保持（気候の違いや産地の違いによる品質のバラツキを常に一定に保つ努力等）に多大な努力を知ることができとても勉強になりました。ぜひとも今回多くの会員や市民の方々に川崎にある正田貞一郎の興した大川地区の製粉鶴見工場を知っていただきたいことと近くにある向井千秋記念子ども科学館のツアーを企画しました。若井さんのお声かけで工場夜景ナビゲーターの方々が多く参加されたのが嬉しく思いました。屋形船での日清製粉の工場夜景の説明もより話が具体的になるのではないのでしょうか。

【日付】平成28年4月27日（水）曇り

【参加者】総勢14人（男性10人、女性4人）

【年齢構成】50代、60代、70代

【費用】6,500円/人（浅草からの往復特急券交通費、拝観料、保険代、昼食代含む）

【感想】今回のミニツアーでは発着が浅草駅という事で通常のミニツアーの応募よりも低かったかなと思いました。やはり川崎市民にとって浅草まで行くのは億劫で少しにためらわれたのかなと思いました。参加されたのは好奇心旺盛な元気な中高年という感じでした。浅草駅に時間前に全員無事に集合しました。

りょうもう号に乗り込み発車までは各自おしゃべりやコーヒーを飲んだりお弁当を食べている方もいらっしやいました。朝早かったのでご自宅でゆっくりと食事の時間が取れ無かったのだと思います。

旅はやはり駅弁だよね。と言ってとても楽しそうにしている食欲旺盛のご婦人方でした。大矢会長も食べたそうになんか飽きた様子で見ているのがお面白かったですね。久しぶりに非日常を味わいリラックスしておしゃべりしてお弁当を食べるのもすごく御馳走でしょうね。さすが女性は楽しみ方を良く知っているなと感心しました。簡単に車内で一日の行程とスタッフを紹介しました。

予定通り館林駅に到着。とてもきれいな新しい駅（昔の館林駅を活かしてデザインしているようです）でトイレ休憩して西口の改札を出る。窓の外を見ると製粉ミュージアムの女性がゲートを開けているのが見えました。到着時間をお伝えしていたので準備だと思いました。おもてなしに感謝です。

製粉ミュージアムに入ると早速椅子が用意されていて本社の総務本部の広報室の阿久井主査のご案内で日清製粉の歴史をビデオで紹介していただきました。

その後、荷物を置いて新館の展示室に移動して小麦を製粉する過程を学ぶ。館内の女性のガイドの方から懇切丁寧な説明を受ける。実際の製粉機械ミル機と篩機（フッター）の前に立つと映像が映し出されて現実に目の当たりで工場を見学している臨場感を味わえます。音や振動も伝わってきます。さすがのプレゼの演出に感心しました。新館から本館の歴史ある建物の階段を移動しながら各ブースへ移動して正田貞一郎の精神を知ることができました。外に目をやると芝生に池があり赤いツツジが鮮やかに目に入ってきました。とても心地よい空間でした。前回は正田英三郎ギャラリーや美智子妃殿下のご成婚の映像を観ることができましたが、今回は時間の都合で残念ながら見ることはできませんでした。一通り館内を見学して席に戻りラボ教室で詳細に小麦から製粉する過程をミニシアの機械で説明を受けました。ミルの回転数や篩機械について熱心に質問をしている方もいらっしゃいました。

アンケートを記入してお好み焼きのお土産をいただきました。より身近に小麦を知り小麦粉の製粉技術を楽しむことができました。この地で企業を興した正田貞一郎の歴史と隣にある正田記念館を見学して正田家のルーツを知ることができました。見学後、踏みきを横断して右手に館林駅を確認しながら駅から北に延びる道を歩いて館林うどんに向かいましたが、方向感覚のずれで道迷いをしました。2年前の道と違うようでした。2年前の街路樹はハナミズキが満開でしたが、今年はずでに花が終わっていました。なんとか無事に館林うどんに時間通りに到着できました。

ナマズの天ぷらをいただきました。ナマズの天ぷらは天つゆでいただくのではなくて醤油をかけていただくとの事。醤油は正田醤油の製品でした。うどんはコシがありとても美味しくいただきました。麦落雁も美味しかったです。隣の中国人のお客さんのグループはデザートとコーヒーがついていたようでした。今度訪ねてもう一度来るときはコーヒーもお願いしようかと思いました。

食事後、ツツジヶ岡公園内を散策しながら向井千秋記念こども科学館に向かいました。2年前の鯉のぼりがあるかと探しながら行くとまあなんてことですよ。

2年前の鯉のぼりより圧倒的に多い鯉のぼりが鶴生田川の両岸に泳いでいました。驚きでした。ボランティアの方々がこのように張るのだらうね。と話ながら館林の素晴らしさを堪能させていただきました。

向井千秋記念こども科学館では各ブースを観たり触れたり、無重力の体験もしました。今度孫たちと来たいなと思いました。

移動中にツツジヶ岡公園にはタンポポンの綿毛が沢山ありました。館林にはこのような空間があることの素晴らしさ羨ましさを感じました。この景色を見て女性の声がワーと歓声が上がりました。

またこの地を訪問して見たくなりました。学びと緑とお花とおじゃべりと楽しい一日でした。また上毛モスリン工場の資料館や田山花袋の茅葺の家も見ごたえがありました。また訪問してじっくりと見学したいと思います。

関係者のみなさま方にはお礼を申し上げます。ありがとうございました。

【写真】



りょうもう号の車内でくつろぐ皆さん。



浅草から館林に到着。





製粉ミュージアム前にて見学会の皆さんと



本社総務部の広報室の阿久井さんからご説明とラボ教室を受講。



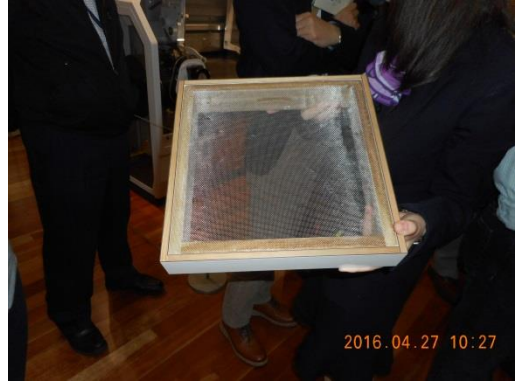
展示室に向かうみなさん。



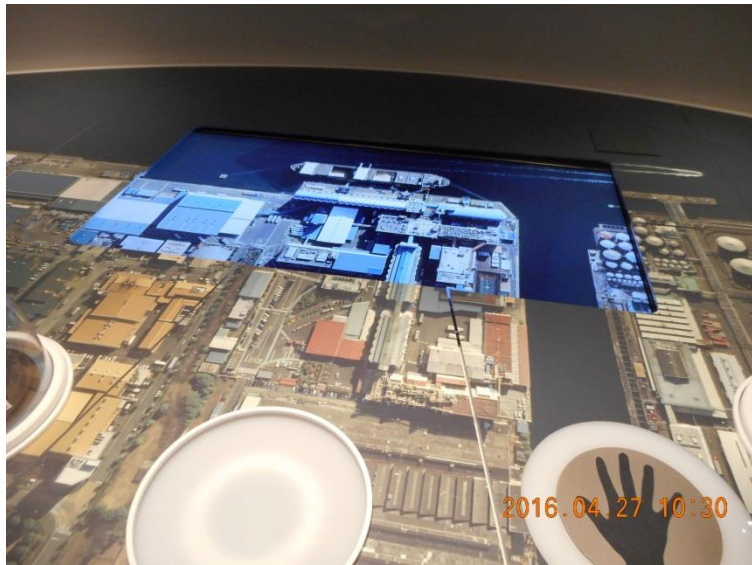
ミル機の前で説明をお聞きするみなさん。



映像で製粉をしている過程を見る皆さん。臨場感あふれる映像でした。音や振動も伝わり工場の中に入るといった感じでした。



ふるい機と篩。



鶴見工場の様子。





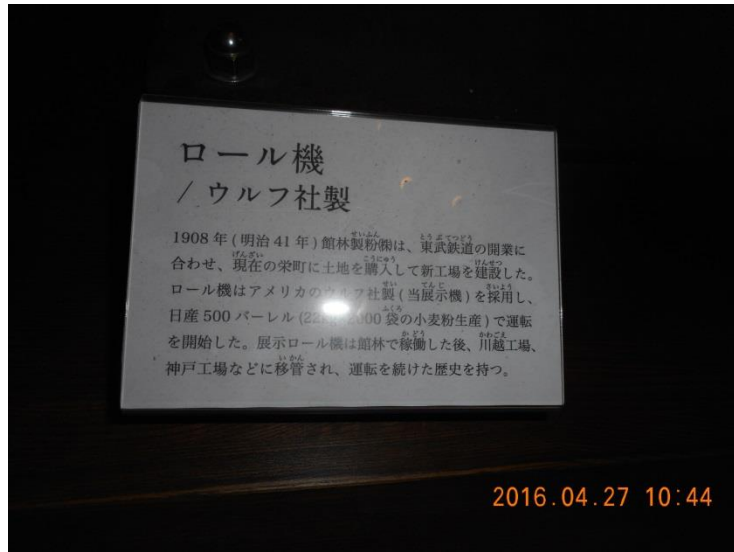
新館と館林駅を望む







2016.04.27 10:42



ロール機 / ウルフ社製

1908年(明治41年)館林製粉備は、東武鉄道の開業に
合わせ、現在の栄町に土地を購入して新工場を建設した。
ロール機はアメリカのウルフ社製(当展示機)を採用し、
日産500パーレル(200kg、300袋の小麦粉生産)で運転
を開始した。展示ロール機は館林で稼働した後、川越工場、
神戸工場などに移管され、運転を続けた歴史を持つ。

2016.04.27 10:44



2016.04.27 10:59



信為万事本。正田貞一朗の経営の信念。信用が万事基本のすべてだとの事。とても
厳しい顔の正田貞一朗の顔写真が印象的でした。昨今経営の不祥事が起こるたびに
この事がとても大事だと改めて思いました。



日本庭園



美智子妃殿下のご成婚を祈念し
たツツジとの事。



鶴と亀をデザインした漆喰の壁。



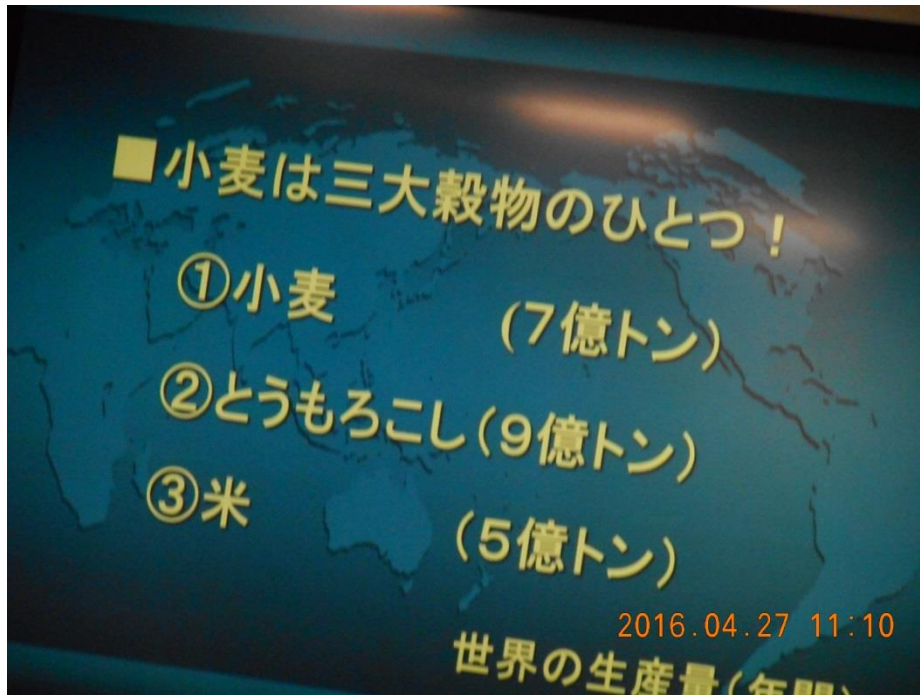
金庫



鶴生田川にたくさんの鯉のこいのぼりが泳いでいました。

ラボ教室







正田記念館前で





すみません。正田邸前で記念撮影。

館林うどん。ナマズの天ぷら。







向井千秋記念子ども科学館に行く途中。タンポポの綿毛がたくさんありました。ここで月での重力を体験されました。大矢さん、松井さん、内山さん、山部さんなど地球の6分の1の重力を体験されました。

向井千秋記念こども科学館にある隣の資料館（旧上毛モスリン事務所機織り業）もとても良かったです、正田貞一郎が利用した馬車が展示してありました。田山花袋の茅葺の家も移築されていました。

向井千秋子ども科学記念館



ムーンウォーカーを体験する大矢さん



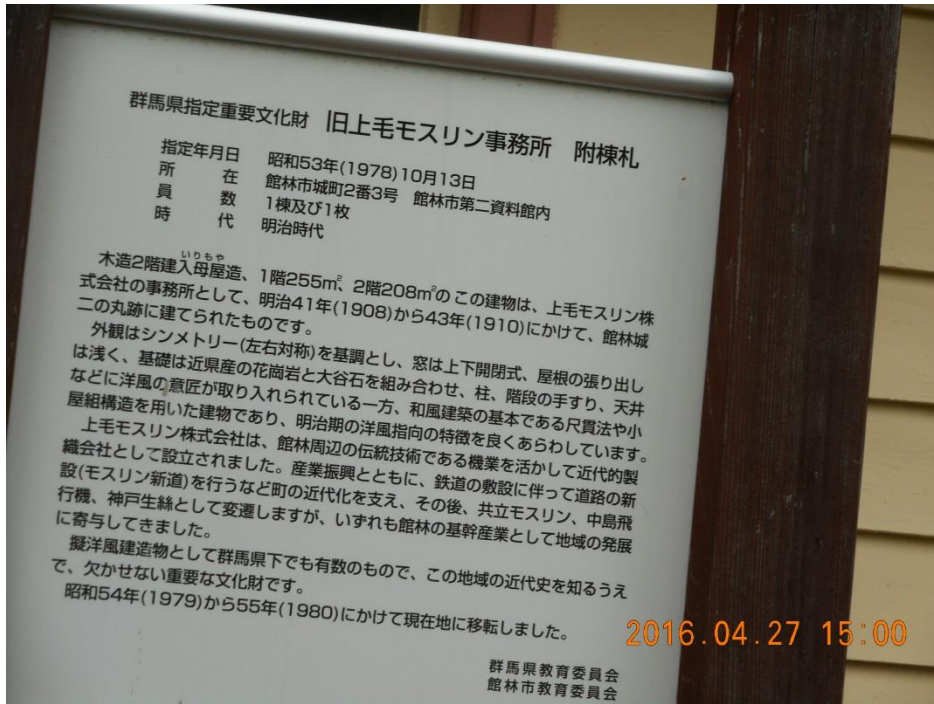
内山さん。地球の 6 分の 1 の重力
を体験されました。





旧上毛モスリン事務所





正田貞一郎が乗った馬車



文豪田山花袋の銅像と屋敷

【アンケート結果の総評】概ね大好評でした。小麦粉のラボ教室はみなさん大いに感激して小麦の奥の深さに感心していました。

また、館林の広い空間にみなさん大いに癒されているようでした。向井千秋記念こども科学館の隣にあったモスリン工場の資料館もとても良かったとの評判でした。また向井千秋記念館でと正田記念会にはガイドが欲しかったとの意見も多くありました。とても満足なツアーでしたが、今後とも仲間たちと再度訪れる機会を作りたいと思いました。参加者のみなさんにはありがとうございました。

向井千秋の記念館では少し時間があったようで、手持無沙汰の方もいらっしゃいました。今後の検討課題ですかね。